

「あつー！お母さんが叫んだ。台所の天ぶら鍋に火がついて、燃え上がっていた。お母さんが立ち上がって火を消そうとしたとき、二回目の揺れが起こった。」

「だめだ、早く外へ逃げなきゃ！」お母さんは僕を連れて真っ暗な廊下を壁づたいに歩き、玄関を目指した。外から、おじいちゃんが玄関を開けてくれた。

「おっい、大丈夫かあ！」僕は足にちくちく痛みを感じたけど、そんなの構いなしに、はだしのままで飛び出した。後で見たら、ガラスの破片で足にすり傷がいっぱいできてた。

「あつー！お母さんが叫んだ。台所の天ぶら鍋に火がついて、燃え上がっていた。お母さんが立ち上がって火を消そうとしたとき、二回目の揺れが起こった。」

「だめだ、早く外へ逃げなきゃ！」お母さんは僕を連れて真っ暗な廊下を壁づたいに歩き、玄関を目指した。外から、おじいちゃんが玄関を開けてくれた。

「おっい、大丈夫かあ！」僕は足にちくちく痛みを感じたけど、そんなの構いなしに、はだしのままで飛び出した。後で見たら、ガラスの破片で足にすり傷がいっぱいできてた。

「あつー！お母さんが叫んだ。台所の天ぶら鍋に火がついて、燃え上がっていた。お母さんが立ち上がって火を消そうとしたとき、二回目の揺れが起こった。」

「だめだ、早く外へ逃げなきゃ！」お母さんは僕を連れて真っ暗な廊下を壁づたいに歩き、玄関を目指した。外から、おじいちゃんが玄関を開けてくれた。

「おっい、大丈夫かあ！」僕は足にちくちく痛みを感じたけど、そんなの構いなしに、はだしのままで飛び出した。後で見たら、ガラスの破片で足にすり傷がいっぱいできてた。

「あつー！お母さんが叫んだ。台所の天ぶら鍋に火がついて、燃え上がっていた。お母さんが立ち上がって火を消そうとしたとき、二回目の揺れが起こった。」

「だめだ、早く外へ逃げなきゃ！」お母さんは僕を連れて真っ暗な廊下を壁づたいに歩き、玄関を目指した。外から、おじいちゃんが玄関を開けてくれた。

「おっい、大丈夫かあ！」僕は足にちくちく痛みを感じたけど、そんなの構いなしに、はだしのままで飛び出した。後で見たら、ガラスの破片で足にすり傷がいっぱいできてた。



「あつー！お母さんが叫んだ。台所の天ぶら鍋に火がついて、燃え上がっていた。お母さんが立ち上がって火を消そうとしたとき、二回目の揺れが起こった。」

「だめだ、早く外へ逃げなきゃ！」お母さんは僕を連れて真っ暗な廊下を壁づたいに歩き、玄関を目指した。外から、おじいちゃんが玄関を開けてくれた。

「おっい、大丈夫かあ！」僕は足にちくちく痛みを感じたけど、そんなの構いなしに、はだしのままで飛び出した。後で見たら、ガラスの破片で足にすり傷がいっぱいできてた。

ダンダンダン！

「あつー！お母さんが叫んだ。台所の天ぶら鍋に火がついて、燃え上がっていた。お母さんが立ち上がって火を消そうとしたとき、二回目の揺れが起こった。」

「だめだ、早く外へ逃げなきゃ！」お母さんは僕を連れて真っ暗な廊下を壁づたいに歩き、玄関を目指した。外から、おじいちゃんが玄関を開けてくれた。

「おっい、大丈夫かあ！」僕は足にちくちく痛みを感じたけど、そんなの構いなしに、はだしのままで飛び出した。後で見たら、ガラスの破片で足にすり傷がいっぱいできてた。

「あつー！お母さんが叫んだ。台所の天ぶら鍋に火がついて、燃え上がっていた。お母さんが立ち上がって火を消そうとしたとき、二回目の揺れが起こった。」

「だめだ、早く外へ逃げなきゃ！」お母さんは僕を連れて真っ暗な廊下を壁づたいに歩き、玄関を目指した。外から、おじいちゃんが玄関を開けてくれた。

「おっい、大丈夫かあ！」僕は足にちくちく痛みを感じたけど、そんなの構いなしに、はだしのままで飛び出した。後で見たら、ガラスの破片で足にすり傷がいっぱいできてた。



特集  
もしも地震が起きたら

余震を甘く見るな

余震とは、本震と同時に発生せず、時間が経った後に来る地震のことです。規模は本震以下のことが多いが、本震に匹敵する規模の余震が発生することもあります。地震災害が発生した後は、建物の耐久性が落ちている可能性があり、本震では倒壊を免れた建物が余震で崩れるというケースもあります。余震による災害には十分な注意が必要です。また余震が続くと、多くの被災者は不眠症や精神的なストレスに悩まされます。

家具の固定

- 食器棚...金具等で固定し、棚板にはすべりにくい布を置く。
- 冷蔵庫...裏側の取手に固定用ベルトを通して固定する。
- テレビ...できるだけ低い位置にベルトで固定する。
- タンス...金具等で固定(2段重ねは接合部も)。
- 本棚...バンドやひもをかけて本の飛び出しを防止する。金具等で固定。
- 壁掛時計・額...チェーンや針金で固定。
- ガラス...飛散防止フィルムを貼る。

緊急地震速報

緊急地震速報は、地震による強い揺れがくることを事前(数秒~数10秒前)に知らせる、気象庁の警報です。最大震度5弱以上と推定された地震の際に、テレビ・ラジオなどを通して発表されます。ただし、震源に近いところでは情報が間に合わない場合もあります。



お母さん(主婦)



お父さん  
(会社員/消防団の分団長)



僕(小学5年生)



おじいちゃん  
(新潟中越地震体験者)

このお話に出てくる人

十分もしないうちに、火は消えた。台所は水びたしになったけど、他の部屋や周りの家に燃え移る前に火を消すことができた。  
みんな、「よかったね」と口々に言ってくれた。

「この辺なら向かいの農業用水から水がとれるぞ！」  
おじいちゃんも、近所のおじさんたちもお兄さんを手伝った。おじさんたちは、慣れた手つきで可搬ポンプを操作して、すぐにエンジンがかかった。おじさんたちもみんな、若い頃は消防団員だったらしい。

ホースの先から勢いよく水が飛び出した。

手の空いている人たちは一列に並んで、用水からバケツで水を汲み、バケツリレーした。僕やお母さんも列に加わった。

「水利はどこだ？」

「よし、やるぞー！」

ほかの近所の人たちも動きはじめた。

お兄さんたちは、向こうの方から真っ赤な機械の荷車を引っぱってきた。

「よし、やるぞー！」

「水利はどこだ？」

ほかの近所の人たちも動きはじめた。

お兄さんたちは、向こうの方から真っ赤な機械の荷車を引っぱってきた。

「よし、やるぞー！」

「水利はどこだ？」



### 可搬ポンプ

地区の防災倉庫の中には、可搬ポンプが配備されているところがあります。可搬ポンプはエンジンの力で川や防火水槽の水を吸い上げ、放水して火を消すための機械です。操作は比較的簡単で、大人が3～4人いれば動かせます。防災訓練などで使い方を覚えておくと、いざというとき必ず役に立ちます。



### 自主防災組織や消防団

大規模な地震が発生すると、その初動時の行政や消防署の対応には限界があります。いざというときに頼れるのは、地域の人たちで組織している自主防災組織や消防団です。日ごろから隣り近所とコミュニケーションをとり、また定期的な防災訓練にも参加して、災害時には迅速に動けるようにしましょう。



### 地震のとき、電話がつながらない？

震災直後は、誰もが離れたところにいる家族や知人の安否確認をしたいため、通話回線の許容量を超える電話が一気に集中します。それにより回線が混み合って電話がつながりにくい状況になります。災害のときは、なるべく電話(特に携帯電話)の使用を控え、災害用伝言ダイヤル171(11ページ参照)などを活用しましょう。



### 田方消防署員と人口の比較

あなたの家の火事を消してくれる、または家族を救助してくれる田方消防本部の消防士等は、2市1町の総人口約125,401人に対し、たった161人しかいません(平成20年11月現在)。つまり、地震等で同時多発的に火災が発生したときは、消防署に頼るばかりでなく、自分たちで何とかしなくてはならないのです。



体育館は先に来た人たちが満員。その夜の僕たちの居場所はグラウンドだった。毛布をかぶってみんなで固まっていたけど、夜風がヒューッと吹き抜けると、凍っちゃうそうだった。余震は一晩中あるし、お腹がすいて眠れない。ラジオから聞こえてきたのは、夕方から東海地方で震度七、マグニチュード八・〇の大地震があった、静岡県全域が壊滅状態」というニュースだった。

なんとか小学校に着くと、もうグラウンドに地区の人が集まっていた。いない人もいたけど、仲良しのカズくんやコーちゃん、シンちゃんとは会えたのでよかった。お母さんは、一七ーに電話して、やっとお父さんと連絡がとれたみたい。無事だけど、国道が通行止めで伊豆箱根鉄道も止まっているから帰って来られないんだって。

避難所の小学校までの約三百の道は、いつもと違ってとても歩きにくかった。道路のアスファルトがデコボコになって、足がスッポリ入るほど大きなみぞもある。これじゃ道路が直るまで、自動車なんて通れない。

「とりあえず避難所へ行こう」  
おじいちゃんはそう言うてから、一度家の中へ戻った。後で聞いたら、また火事にならないようにガスの元栓と電気のブレーカーを切ってきたみたい。  
おじいちゃんは自分で用意してあった「非常持ち出し袋」や、僕とお母さんのクツと上着、三人分の毛布を運び出してから玄関にカギをかけて、「みんな無事、小学校にいる」という張り紙を張った。これは、お父さんが帰ってきたときに誰もいなくてびっくりしないようにならなくていい。



### 避難所

新潟県中越地震での避難者数は、一時10万人を超えました。これは、建物被害から想定される人数よりもはるかに多く、さらに大きな余震が続いたため避難生活は長期化しました。このため避難所の確保や食料・水などの供給に混乱が生じたり、プライバシーのない生活のストレスで健康を害する人が出るなど、多くの問題が生じました。



避難所の様子

### NTT 災害用伝言ダイヤル 171

家族・知人の安否確認のための災害用伝言サービスです。

**録音** 171をダイヤル 録音の場合1をダイヤル  
市外局番(0xx)xxx xxxxx  
自宅(被災地内)の電話番号をダイヤル

171をダイヤル 再生の場合2をダイヤル  
市外局番(0xx)xxx xxxxx  
被災地の方の電話番号をダイヤル **再生**

### 非常持ち出し品

袋に入れて、いつでも出せる場所に置いておきましょう。



(中身の例) ラジオ、懐中電灯、救急セット、ライター、軍手、タオル、ティッシュ、カイロ、ビニール袋など

### 二次火災の防止

地震直後は停電により電源が入っていなかった電化製品も、復旧時の通電により無人のまま電源が入って、2次火災に発展する危険性があります。特にアイロン、ドライヤー、コタツ、ファンヒーター、テレビなどの発熱する電化製品は要注意です。

家の外に避難するときには、必ず分電盤のブレーカースイッチを『切』にしましょう。



分電盤のブレーカー

「生きてさえいれば、まちもまた生き返る」と、おじいちゃんやんは地震後、初めて笑顔を見せた。僕もそう思い、ちょっと笑顔になった。(おわり)

一週間後、自衛隊の人がお風呂を作ってくれた。世界中から静岡県に救援物資が届いて、ボランティアの人たちも集まってきてるんだって。余震もまだ少しあるけど、来週からは学校も始まる。

四日後、やっと市の車が小学校に来て、水や食料を配ってくれた。お父さんも消防団の救出活動に加わった。

お父さんが帰ってきたのは地震から二日後。線路の上を歩いてきたんだって。服はボロボロだったけど、ケガもなかった。うちは全員が無事だったけど、家の下敷きになった親せきのおじいさんは、今もまだ見つかっていない。

「一晩明ければ給水車が来る」とみんなが噂してたけど、道路が壊れてたどり着けないらしい。でも、僕の家にはまだ少し缶詰やカップめん、お風呂の水もあるから大丈夫だ。近所の人にも分けてあげて、代わりに野菜をもらった。

「備えあれば、憂いなしだぞ」とおじいちゃんが言った。僕は昨日から何も食べていなかった。おじいちゃんが倉庫から出してくれた缶詰を食べた。のどがかわいて蛇口をひねったけど水が出ない。おじいちゃんが、お風呂の水を飲め」と言った。嫌だけど、がまんして飲んだ。

次の日の朝早く、僕は家に戻ってみた。昨日は暗くて見えなかったけど、街中の電柱が斜めに傾いていて、ペしゃんこの家もあった。僕の家はつぶれなくて本当によかった。

このお話はフィクションです。ただし、静岡県が算出した第三次地震被害想定や、阪神淡路大震災・新潟県中越地震等の記録、被災者の体験談などをもとに作った、「明日起るかもわからない」未来のお話です。

東海地震については、発生の危険度に応じて、東海地震観測情報、東海地震注意情報、東海地震予知情報が発表されます。東海地震発生の恐れがある場合には、東海地震予知情報が出され、内閣総理大臣から警戒宣言が発令されます。ただし、前兆現象が小規模だったり急激に進んだ場合、今回のお話のように突然地震が発生する場合もあります。皆さんも、日ごろの備えを忘れずに...



地域防災訓練に参加しよう！

『再発見！地域の防災資源 高めよう！地域の防災力』  
大地震を乗り切るためには、地域の人々の協力体制が必要不可欠です。この機会に防災資源を確認・点検するとともに、隣り近所の絆を深め、地域の防災力を向上しましょう。

とき 12月7日(日)  
ところ 各地域の指定場所  
問合せ 安全対策課 電話 055 948 1412



とりあえず、3日間は自分の力で！

東海地震のように大きな災害が起きた場合、行政の支援は、すぐにはあてにできないと思ってください。配給される水や食料などが各避難所に行き渡るには、最大で3日はかかると見るべきでしょう。つまり、最低限3日間は、自分や家族が生き延びるだけの備えをしておく必要があります。

「自分の身は自分で守る」ことを今一度、心に刻んでください。



飲料水・食料の備蓄

飲用水 1日3ℓ×3日分×人数分 \*写真は1人分

食料品 7日分(うち調理不要の非常食3日分) \*写真は食料等の一例です。

地震に強い我が家を

阪神・淡路大震災(神戸市内)では、死者の約8割が建物の倒壊や家具の転倒による圧死によるものでした。東海地震では建物や人的被害はその約2倍になると想定されています。

そこで県と市は、木造住宅の耐震化プロジェクト TOUKAI(東海・倒壊)0を進め、昭和56年5月以前に建築した木造住宅の無料耐震診断や耐震補強工事の補助 30万~50万円 を実施しています。

